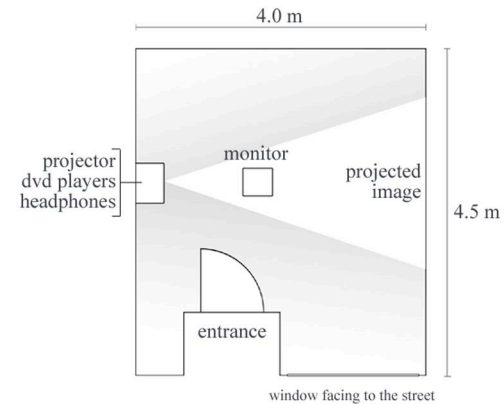




She has her own story to tell 彼女には彼女自身の語るべき物語がある

2006

ビデオ・インスタレーション(プロジェクター、ブラウン管テレビ、台座、DVDプレーヤー2機、ヘッドホン)
映像(カラー・音声あり)、映像(白黒・音声なし)共に5分50秒



誰かが外国語で話しているのを聞いていてついていけない時には、想像力で穴を埋め、話の自分バージョンを勝手に作っている。日常生活における言語の障壁をいかにうまく切り抜けるかという、自分なりの戦略にもとづいたビデオ・インスタレーション。

インスタレーションの構成は、穴とそれを埋めるものという構造を反復。作品はもともとはスウェーデン語話者を念頭に制作し、日本人、ドイツ人の後に、スウェーデン人女性が彼女の話をするに至って、ブラウン管に映し出される文章が必ずしも話者の発言と一致するわけではないことにゆっくと気づいてゆくように設計。その後アメリカ人、ケニア人、フランス人の話が続く。

眼鏡を通して見る それぞれ母語ではない言語が話されている他郷に住み、異なる国籍をもつ6人が語る、眼鏡にまつわる個人的な思い出を集めたもの。話者は手にした私の眼鏡に自らの記憶の中の眼鏡を重ねて、自分の母語でその思い出を語る。

通訳する黒い箱 ブラウン管に映し出される英語の文章は、それらの話の翻訳字幕ではなく、私なりの解釈を英訳したもの。なじみのない言語での話では、鍵となる言葉を探し、想像力を働かせ、身振りや顔の表情、声の調子から読み取り、自分の持っている話者各人のイメージを重ねての解読を試みた。

コミュニケーションにある穴 ビデオの要素は、画像は壁にプロジェクターで投影し、文章はブラウン管に黒の背景に白の文字で、音声はプロジェクターおよびブラウン管を前に観客が佇む位置にヘッドホンで、と空間の中で別々に提示した。文章を提示するブラウン管は投影される画像の一部を遮る。焦点がずれてぼんやりとした話者の手と眼鏡の画像を、その黒い表面に吸収するブラウン管は、音声と画像の間に介在し、壁に投射された画像の中に「紛失された空間」を創り出す。

(left page) installation view at Galleri Ping-Pong in Malmö, Sweden (right page, upper left) composition of the installation (right page, upper right to lower right) six speakers - Japanese, German, Swedish, American, Kenyan, and French.

